

中国一般機械工業の技術進歩に関する研究

韓金江

本論文は、中国の一般機械工業の建国から1990年代までの技術的発展状況の考察を通じて、その技術進歩の要因と実現メカニズムのあり方を解明しようとするものである。

まず、技術進歩に関する理論研究を行うことにより分析の枠組みを作り上げた。とりわけ企業活動を中心とする、企業外部のR&D活動、教育活動および政府の支援政策を含む技術進歩メカニズムの一般的形態を提示した（第1章）。

次に、改革開放後の技術政策の変化と成果を検討し、中国の技術進歩メカニズムにおける政府の役割が企業発展に対する支配から支援へと変化したことを指摘し、産業発展に関わる技術政策体系を明らかにした（第2章）。

そして、本論文の研究対象である一般機械工業に関わる技術的発展について、その1980年代までの歴史（第3章）、1990年代の発展状況（第4章）、および建国以降50年余りの技術導入状況（第5章）を検討し、発展の主な達成要因を見出した。それは、技術革新や技術導入などの具体的要因と共に、1990年代に技術進歩メカニズムの転換があったことである。即ち、技術進歩の主体は政府から企業に変わりつつあると同時に、科学研究と経済との関連がより緊密になっていることである。

さらに、技術進歩メカニズムにおける企業活動を究明するために、一般機械工業における重要な地位を占める工作機械分野の事例研究を行い、北京第一機床廠の事例を通じて、工作機械工業における技術進歩の要因を解明した（第6章）。その要因としては、①政府の育成政策による支援、②外国企業との技術提携、③外国技術の消化吸收、④企業内製品開発体制の構築、⑤産学連携の強化という5つの点が挙げられた。

また、技術進歩を促す法的基盤の整備として、知的財産権制度を取り上げ、特に2000年の特許法第2次改正を中心に検討した（第7章）。特許法改正による制度の強化は、一般機械工業の技術進歩を促進していくと予測される。

以上のような理論と実証、歴史と政策、そして産業と個別企業の検討を通じて、一般機械工業の技術進歩メカニズムは1990年代以来大きく転換し、市場経済体制に適応できる仕組みに変化しつつあること、またその機能向上自体が技術進歩の重要な要因であったと結論づけられる。